朮

ツルギク一名カラギクヅルト云、琉球産物志ニ見ヘタリ、琉球産物志ハ明和庚寅ノ歳薩州重豪公ヨリ、琉球大島ノ産物千餘品ヲ、東武ノ侍醫坂上氏ニ賜リシヲ圖スルノ書ナリ、

〔新撰字鏡草〕白朮乎介良

〔本草和名六草〕朮、一名山荆仁謂音計、一名山薑、一名山連、白朮、赤朮、陶景注云、此物有二二種、一名山精出抱朴子、一名山蒙、一名蘇已上二名出釋藥性、一名地膏共兼名苑、成練紫芝練伏之朮名也出神仙服餌方、和名乎介良、

〔倭名類聚抄二十草〕朮　爾雅注云、朮儲律反和名乎介良、似蘐生山中、故亦名山蘐也、

〔箋注倭名類聚抄十草〕爾雅、朮山蘐、郭注、今朮似蘐而生山中、此所引蓋舊注、郭依之也、本草陶注云、朮乃有兩種、白朮葉大有毛而作椏、根甜而少膏、赤朮葉細無椏、根小苦而多膏、圖經云、春生苗青色無椏、莖作蒿幹狀、青赤色、長三二尺以來、夏開花紫碧色、亦似刺蘐花、或有黃白花者、入伏後結子、至秋而苗枯、根似薑而傍有細根、皮黑心黃白色、中有膏液紫色、又云、今白朮生高山崗上、葉葉相對、上有毛、方莖莖端生花、淡紫碧紅數色、根作椏生、

〔八雲御抄三上草〕朮　うけらが花に有　むさし　さきてひらけぬ物也　是おけらといふ藥也

〔藻鹽草八草〕白朮

うけらが花、むさしのにあるさきてひらけぬ物也、歌にもひらけぬよしをよめり、又色にいでめやともよめり、又いしぬ濱、又あさか潟にもよめり　さき草、ひの木を云と云儀あれどをけら也、古今に三葉四葉とよめるも、朮三葉四葉ある也、○下略

〔古今要覽稿草木〕をけら　白朮

ヲケラの物に見へしは、出雲風土記を始とし、又ウケラともいふ、萬葉集中略○赤白二種共に、山中におのれと生出しものよろしきよし、大同類聚方に見へたれど、今の本は後世者僞撰なるべければ、いまだたしかに證となしがたし、されども此もの美濃國に産せしは、さらにもいはず、出雲國意宇郡、島根郡、秋鹿郡、楯縫郡、飯石郡等に産し、出雲風土記また山城、大和、尾張、三河、駿河、安房等、凡三十箇